秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	芸術 I (美術)
科目基礎情報					
科目番号	0002		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 『美術1』 光村図書				
担当教員	小林 真, 有馬 寛子				
到達目標					
1. デッサンや版画制作に意欲的に取り組んで描く楽しさを味わい, 美的関心を高めることができるようになること。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	デッサンや油絵制作に意欲的に取り組んで描く楽しさを味わい, 美的関心を十分に高めることができる。		デッサンや油絵制作に意欲的に取り組んで描く楽しさを味わい, 美的関心をある程度高めることができる。		デッサンや油絵制作に意欲的に取り組めず, 描く楽しさを味わい, 美的関心を高めることができない。
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	描画の基礎技法や知識と鑑賞の学習を通して, 表現する喜びを知り, 美的感性を育む。				
授業の進め方・方法	個人、全体と学習する内容に合わせた形態で行う。必要に応じて、適宜、課題、小レポートを課す。表現活動においては、授業目標達成のため、でき得る限り個別指導に重点を置く。				
注意点	合格点は50点以上とする。 作品を60%、ノート提出等を40%として、評価する。 特に作品の未提出者は単位取得が困難となるので注意すること。 用具の準備・取り扱い・片付けと保管を確実にし、授業に臨むこと。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	授業ガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について理解する。	
		2週	素描「立体を描く」(鉛筆, スケッチブック) 対象の正しい見方, 捉え方について	各自が紙で立体形をつくり, 鉛筆の明暗差によるデッサンでその立体感を表現できる。	
		3週	着彩「立体を描く」(絵具, スケッチブック) 対象の正しい見方, 捉え方について	絵具の明暗差による着彩によって立体感を表現できる。	
		4週	版画 I 「自分をあらわす○○」 (1) 版画作品の鑑賞	版画の良さや, 作品のねらいなどを理解, 鑑賞できる。	
		5週	(2) テストピースの作成	テストピースを作成し, 版画の手順を理解する。	
		6週	(3) 構図デッサン (鉛筆, スケッチブック)	各自が選んだ題材の特徴や構成を把握し, 鉛筆デッサンできる。	
		7週	(4) 下絵作成	各自が選んだ題材の特徴や構成を把握し, 下絵を作成することができる。	
		8週	(5) 版への転写、彫り	各自が選んだ題材の特徴や構成をを基に版をつくることことができる。	
	4thQ	9週	(5) 版への転写、彫り	各自が選んだ題材の特徴や構成をを基に版をつくることことができる。	
		10週	(6) 試し刷り 1	各自が選んだ題材の特徴や構成をを基に版をつくることことができる。	
		11週	(7) 版の修正	試し刷りをもとに, より良い表現となるよう版を修正することができる。	
		12週	(8) 試し刷り 2、版の修正	試し刷りをもとに, より良い表現となるよう版を修正することができる。	
		13週	(9) 鑑賞, 中間合評	他者の作品と自作について比較し, 反省できる。	
		14週	(10) 多色刷り	完成した版を使用し, 多色刷りによる色彩表現を行うことができる。	
		15週	(10) 多色刷り	完成した版を使用し, 多色刷りによる色彩表現を行うことができる。	
		16週	(11) 鑑賞, 最終合評	他者の作品と自作について比較し, 反省できる。	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	作品	ノート提出	相互評価	態度	合計
総合評価割合	50	30	10	10	100
基礎的能力	20	10	10	10	50
専門的能力	30	15	0	0	45
分野横断的能力	0	5	0	0	5